

## 輝け！シン尾花沢中

第142号

令和7年

12月10日

まちのさかえは 国の富 はたらくものの よろこびを

## 「がん」を知り、自身の健康について主体的に考える

4日（木）、学校薬剤師の柴崎光太郎氏（柴崎薬局）を講師に、2年生に対して「がん教室」が行われました。文部科学省では、「がん教育」について次の目標を示しています。

- ①「がん」について正しく理解することができるようにする

②健康と命の大切さについて、主体的に考えることができるようにする

2年生にとっては、保健体育科で既に学習していた「がん」について、更に深く学ぶ機会となりました。学んだ内容の概要は、次の通りです。

## ■早期発見

- ・健康診断を受けることで、早期発見すれば多くの「がん」は治るようになってきた。

## ■治療の方法

- ・入院せずに、外来で通院して行う人が増えた。
- ・「手術療法」「放射線」「化学療法」がある。
- ・治療法を理解し、自分で納得して選ぶ意識が大切である。

## ■使われる薬

- ・どんな抗がん剤にも、下痢や吐き気、皮膚障害、脱毛、味覚障害などの副作用がある。
- ・苦痛をできるだけ取り除く体の苦痛には、医療用麻薬などの痛み止めを使うこともある。

## ■地域での連携

- ・医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域で自立した生活を続けることができる体制づくりが進んでいる。

3名の生徒の振り返りを紹介します。

近藤ゆずさん：体の中で毎日 5,000 個ほどのがん細胞ができていることに驚きました。医療の進歩により、健康診断での早期発見で9割治るということや、いろいろな患者さんに対して副作用や緩和ケアなど幅広く対応できることが「すごい」と思いました。

西尾結生さん：がんにかかる100%命を落とすのではなく、抗がん剤や放射線を使用して治療できることを知り、安心しました。また、1錠が数万円の薬に対しても国がある程度保障してくれることなども知り、「もっとそういうことに税金を使ってほしい」と思いました。今後は、副作用のない抗がん剤をつくってもらえるよう、医学の進歩に期待したいです。

庄司直さん：がんの理解がいかに大事かを理解しました。理解していないと不安だらけですが、理解を深めることで治療方法などに悩むことはなくなりました。家族と話し合って理解を深め、家族全員が健康に生きていければよい、と思いました。

全ての人が「がん」について正しく理解することで、だれもが幸せで暮らしやすい社会につながることを学んだ1日となりました。

【文責：校長 工藤雅史】

